



## 市尼創立100周年記念講演での話 (11月18日朝礼での話より)

市尼の卒業生で女優の南果歩さんが記念講演されました。南さんといえばNHK朝の連続テレビ小説「梅ちゃん先生」や映画「阪急電車」に出演しています。スタイルが良く大変綺麗な方ですが、何よりも感心したのは姿勢の美しさでした。公演中、背筋を最後までピンと伸ばした姿に、さすが“女優”だなと感心しました。

高校時代はダンスを習ったり、バトン部で顔が真っ黒になるまで練習をしたり、高校三年生の時は夏休み中かかって映画を撮影したそうです。まさに青春を謳歌されたようですが、大学は東京に行きます。尼崎を離れたかったとのこと、といっても尼崎が嫌いだったのではなく、新天地で新しい自分を見つけるためでした。世の中には綺麗な人は沢山いますが美しいだけでは女優になれません。南さんの話を聞いていると、苦労したという暗いイメージは全く感じられません。今を楽しみながら、自分自身を磨く努力を続けてきた姿勢が印象的でした。

南さんは講演を通して高校生に「心動かすこと」を見つけなさいというメッセージを送っていました。常に自分が興味を持っていることに全力を尽くしなさいということです。もし、高校生に戻ることができるとしたら何がしたいですか？と問われると、高校時代へはもう帰りたくありませんとキッパリ、その理由は高校時代にやりたいことは全てやりきったからということでした。まさに完全燃焼です。さらに、努力を継続すれば大人になっても成長し続け、完全燃焼した時はじめて次のステージが見えてくるものであると。だから幾つになってもキラキラした目でいられるのだなと気づかされました。

女優という職業は自分を表現する仕事ですが、表現する中身を持っていないと誰も感動してくれません。だから、自分を高める努力を怠らない姿勢が南さんの土台になっているのですね。

## 「努力の壺」という話 (11月25日朝礼での話より)

人が新しいことを始めようとか、今までできなかったことをやろうと思った時、神様から「努力の壺」をいただきます。その壺は、いろんな大きさがあって、人によって大きいやら小さいのやら様々です。でも、その壺は決してその人の目には見えません。しかし、壺の中に一所懸命「努力」を入れていくと少しずつ貯まり、いつか溢れ出します。その時になってはじめて壺の大きさが分かるのです。だから休まずに壺の中に努力を入れていけば、いつか、必ずできる時がくるのです。

例えば、小学生の時、誰でも逆上がりの練習や自転車の練習をしたはずですが、逆上がりや自転車が簡単にできた人もいたでしょうが、いくら練習してもなかなかできなかった人もいたはずですが。だけど、諦めたら最後で、決してできるようにはなりません。自分ではいつできるようになるのか分からないのです。時間がかかった人の「努力の壺」は大きかったこととなります。しかし、簡単にできた人でも、別の課題が簡単にできるとは限りません。

私がこの話が好きな理由は、諦めずに努力を続ける気持ちの大事さを上手く表しているからです。「継続は力なり」といわれますが、ただ続けるだけでなく、自分にはできないのじゃないかと不安になりながらも諦めずに努力を続ける人にだけ、「できた」という達成感が味わえるからです。続けることこそが大切です。